

ISL Conference Proxy

アップグレード&移行マニュアル



目次

1	ISL Online オンプレミスライセンスについて.....	4
2	ISL Conference Proxy のバックアップ.....	6
3	ISL Conference Proxy の移行.....	9
3.1	はじめに	9
3.2	移行手順	12
4	ISL Conference Proxy のアップグレード	16
4.1	はじめに	16
4.2	アップグレードに必要なファイル.....	16
4.3	アップグレード手順	18
4.4	ライセンスファイル適用について.....	19
4.5	Manual Update（各種プログラムの手動アップグレード）について.....	20
5	ISL Conference Proxy の復旧	24
6	ISL Conference Proxy のアンインストール	24
7	ISL Conference Proxy のエラーメッセージ	26

本マニュアルについて

本マニュアルでは、オンプレミスライセンス（ISL Conference Proxy）を既にご利用中のユーザー向けに以下の手順をご案内しております。

		ISL Conference Proxyのバージョン	
		維持する	最新版にアップグレード
サーバー	移行しない	-	「アップグレード」
	移行する	「移行」	「移行」+「アップグレード」

- ・ ISL Conference Proxy の「バックアップ」手順（6 ページから）
- ・ ISL Conference Proxy を別のサーバーにインストールする「移行」の手順（9 ページから）
- ・ ISL Conference Proxy を最新バージョンに「アップグレード」する手順（16 ページから）

【注意】

- ・ ISL Conference Proxy の移行およびアップグレードは、必ずバックアップを取った上で行ってください。
- ・ ISL Conference Proxy の「移行」と「アップグレード」の両方を実施する場合は、現在ご利用中の ISL Conference Proxy を新しいサーバーへ移行した後にアップグレードを実行してください。移行後は早めにアップグレードしてください。
- ・ 先にサーバー移行を行うことが難しい場合は、ご利用中の ISL Conference Proxy をアップグレードした後に新しいサーバーへ移行することも可能です。
- ・ ISL Conference Proxy を新規に構築する手順は、『ISL Conference Proxy 新規セットアップマニュアル』をご参照ください。
- ・ 常駐接続（ISL AlwaysOn）のクライアントのバージョンアップ手順は、『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください。

ISL Conference Proxy 各バージョンのインストーラーとモジュール関連 ZIP

ISL Conference Proxy 各バージョンの構築に必要なファイル（インストーラーとモジュール関連 ZIP）は、以下のページからダウンロードしてください。

▼オンプレミスライセンス 製品ダウンロード

https://www.islonline.jp/help/download_cp.html

1 ISL Online オンプレミスライセンスについて

ISL Online オンプレミスライセンスを使用すると、自社のサーバーで稼働する ISL Online 製品のシステムを構築できます。自社内のネットワークのみで使用する場合、パブリッククラウドライセンスのようにインターネットを経由しないため、セッションを完全にコントロールできます。

動作環境

※最新の動作環境および詳細は、以下のページをご参照ください。

<https://www.islonline.jp/features/requirements.html>

対応 OS

Windows : Windows Server 2016 / 2019 / 2022 64bit

Linux : Red Hat Enterprise Linux 8 - 9(64bit) / Ubuntu 20.04 LTS - 22.04 LTS(64bit)

ハードウェア要件

- ・ CPU : 2GHz 以上、メモリ : 4GB 以上、HDD : 10GB 以上の空き容量 (最小構成)
- ・ 専用のハードウェアをご用意いただくことを推奨しています。
- ・ 対応 OS のシステム要件を満たす仮想環境でもご利用いただけます。

※ 同時接続数および常駐モジュール (ISL AlwaysOn) の台数に応じたハードウェアの要件は、上記「動作環境」のリンク先ページをご参照ください。

通信環境

- ・ 通信速度: 256Kbps (DSL) 以上
- ・ 通信ポート (初期値): 内向き TCP ポート 7615、443、80 (任意のポートに変更可能)

その他

ISL Conference Proxy のインストールフォルダーの初期値は以下の通りです。

- ・ Windows : **C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy**
- ・ Linux : **/opt/confproxy**

※ インストールフォルダーを変更している場合は、当該マニュアルの内容を初期値と置き換えて作業を行ってください。

ISL Conference Proxy をインストールするサーバー (Windows) で F-Secure アンチウイルス が稼働している場合、以下の設定を行う必要がございます。

1. リアルタイムスキャンのスキャン対象から、以下のフォルダ (ISL Conference Proxy のインストールフォルダー) を除外してください。

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy

2. ディープガードのスキャン対象から以下のアプリケーションを除外してください。

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy¥confproxy_server.exe

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy¥pg_tool.exe

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy¥postgresql_bin¥bin¥pg_ctl.exe

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy¥postgresql_bin¥bin¥initdb.exe

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy¥postgresql_bin¥bin¥postgres.exe

2 ISL Conference Proxy のバックアップ

ブラウザ上でバックアップ画面へアクセスし、バックアップファイルを取得します。ISL Conference Proxy のサービスを停止することなくバックアップ可能なほか、処理をスケジュール化することも可能です。

移行またはアップグレードを行う前には、必ずバックアップを行ってください。

はじめに

管理画面上で、バックアップ画面へのアクセス許可を行います。

1. ISL Conference Proxy をインストールしたサーバー上でブラウザを起動し、以下の URL にアクセスします。
<http://localhost:7615/conf> (7615 部分は利用中のポート番号)
※ [すべてのプログラム]-[ISL Conference Proxy]-[Web administration]を選択して起動することもできます。
 2. ログイン画面が開いたら、[Username]に「**admin**」、[Password]に「**asd**」と入力してログインします。
 3. [Configuration]-[Security]を選択します。
 4. [User can create backups:]のチェックを外し、[Yes]にします。
 5. 画面下の[Save]を選択して、変更を保存します。
- ※ 特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。
[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[Security]

バックアップの取得方法

1. ISL Conference Proxy をインストールしたサーバー上でブラウザを起動し、以下の URL にアクセスします。
<http://localhost:7615/users/backup/> (7615 部分は利用中のポート番号)
2. ログイン画面が表示された場合は、ユーザーID とパスワードを入力しログインします。
※ログインユーザーは「admin」ではなく、**ISL Online でセッション接続するユーザーID**を入力してください。

3. [バックアップを作成]を選択します。

バックアップ

バックアップ名

現在バックアップが作成されていません。

バックアップを作成

4. バックアップを取得する条件を設定します。

バックアップを作成

名称

バックアップ名

バックアップ先

サーバー

-1

ディスク上のパス

例: C:\Backups

バックアップスケジュール

スケジュール時間 (UTC)

00 00

☐ 毎日

☐ 月 ☐ 火 ☐ 水 ☐ 木 ☐ 金 ☐ 土 ☐ 日

バックアップ項目

☒ ファイル (遠次での取得推奨)

例: インストールフォルダ、カスタマイズフォルダ、証明書等

☒ データベース (日次での取得推奨)

例: ユーザーデータ、履歴、カスタマイズデータ等

通知

メール通知

完了時やエラー発生時にメール通知を送信します。カンマ (,) 区切りで複数の宛先を指定できます。

- **バックアップ名** : バックアップの名称です
- **サーバー** : 「-1」を指定します
- **ディスク上のパス** : バックアップファイル出力先のパスを指定します (存在するパスであるほか、ISL Conference Proxy のサービスを起動している「¥islap」のアカウントでフルコントロールのアクセス許可が必要です)
- **スケジュール時間 (UTC)** : 定期的にバックアップを取得する場合にのみ指定します。スケジュールには世界協定時 (UTC) が適用されます。
- **バックアップ項目** : ファイル/データベースが選択可能です (ISL Conference Proxy の移行や復旧をする場合、両方にチェックを入れてください)
- **メール通知** : バックアップ完了後にメール通知を受け取る場合にのみ指定します (別途メールサーバーの設定が必要になります)

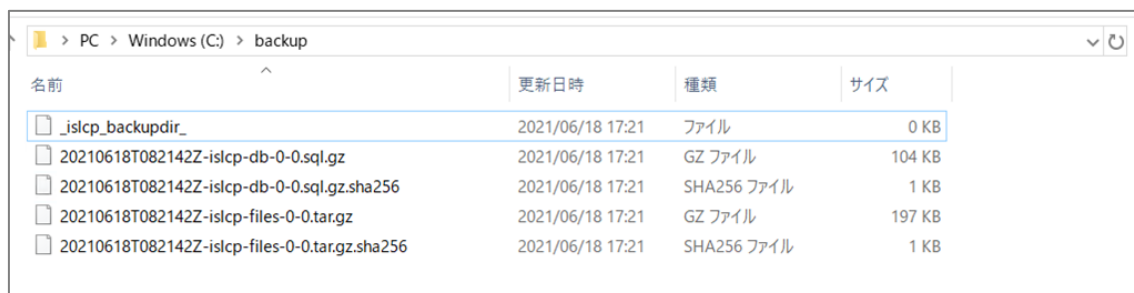
5. [作成]を選択します。
6. バックアップ画面上の[今すぐバックアップ]を選択します。
7. 正常に処理が完了すると、指定したディスク上のパスにバックアップファイルが出力されます。また「バックアップ履歴」欄には「バックアップ完了」状態の履歴が表示されます。

バックアップ履歴

バックアップ名	バックアップ先	日付	期間	状態
データベース日次バックアップ	-1(C:\Backups)	2020-07-14 00:00:00 (UTC)	00:00:02	✓ バックアップ完了

➡ (補足)

- ・ バックアップ完了後は「.sql.gz」「.tar.gz」「.sql.gz.sha256」「tar.gz.sha256」という 4 つのファイルが出力されます。



名前	更新日時	種類	サイズ
_islcpc_backupdir_	2021/06/18 17:21	ファイル	0 KB
20210618T082142Z-islcpc-db-0-0.sql.gz	2021/06/18 17:21	GZ ファイル	104 KB
20210618T082142Z-islcpc-db-0-0.sql.gz.sha256	2021/06/18 17:21	SHA256 ファイル	1 KB
20210618T082142Z-islcpc-files-0-0.tar.gz	2021/06/18 17:21	GZ ファイル	197 KB
20210618T082142Z-islcpc-files-0-0.tar.gz.sha256	2021/06/18 17:21	SHA256 ファイル	1 KB

ファイル名の形式

[取得日時]-islcpc-[files|db]-[採番]-0.sql.gz

[取得日時]-islcpc-[files|db]-[採番]-0.tar.gz

[取得日時]-islcpc-[files|db]-[採番]-0.sql.gz.sha256

[取得日時]-islcpc-[files|db]-[採番]-0.tar.gz.sha256

「ファイル」項目バックアップ時のファイル名 (例)

20210618T082142Z-islcpc-db-0-0.sql.gz

20210618T082142Z-islcpc-files-0-0.tar.gz

20210618T082142Z-islcpc-db-0-0.sql.gz.sha256

20210618T082142Z-islcpc-files-0-0.tar.gz.sha256

- ・ 出力先にはバックアップファイルの他に、『_islcpc_backupdir_』という拡張子なしのファイルが作成されます (ISL Conference Proxy 復旧の際に必要になります)。
- ・ 作成済みのバックアップを編集・削除する場合、[今すぐバックアップ]横の[▼]から行います。



- ・ ISL Conference Proxy の移行または復旧する場合は、「バックアップ項目」で「ファイル」と「データベース」両方にチェックを入れたバックアップファイルを使用してください。
- ・ Linux OS の場合、以下コマンドを実施し、出力先ディレクトリの所有者を「islcpc」にしてください。

sudo chown islcpc バックアップファイル出力先

3 ISL Conference Proxy の移行

3.1 はじめに

保守サポートが終了したバージョンの移行はサポート対象外のため、新規セットアップを推奨します。保守サポート対象のバージョンは、別紙『バージョンアップガイド』をご参照ください。

https://www.oceanbridge.jp/isl/cp/manual/ISL-VersionUp_Guide.pdf

ISL Light、ISL AlwaysOn および ISL Groop は、ダウンロードやインストールを行った際の「IP アドレスまたは DNS 名（以下、アドレス）」に対して接続を行うため、移行前のサーバーのアドレスが移行後と異なる場合は以下の点にご注意ください。

- (ア) 移行後に ISL Light または ISL Groop を使用する際は、移行後のサーバーのオンラインページから取得したプログラムを使用すること
- (イ) 移行後のサーバーのアドレスが、移行前のサーバーのアドレスと同じ場合は、ISL AlwaysOn の設定をそのまま使用いただけます。移行後のサーバーのアドレスが移行前と異なる場合は、以下手順により ISL AlwaysOn の設定を一部変更することで引き続き使用いただけます。
 1. 移行前サーバーの ISL Conference Proxy サービスを停止します。
※必ず移行前の環境を停止してから以下手順を行ってください。
 2. ISL AlwaysOn をインストールした PC で、Windows の「管理ツール」から「サービス」を開き、サービス「ISL AlwaysOn Service」を停止します。
 3. レジストリエディターを開き、以下にあるレジストリキー「ISL AlwaysOn::address」の値が移行前サーバーの「IP アドレスまたは DNS 名」である点を確認します。

●設置箇所

- ・ 32bit OS の場合： HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ISL Online¥Grid¥移行前サーバーの IP アドレスまたは DNS 名
- ・ 64bit OS の場合： HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥ISL Online¥Grid¥移行前サーバーの IP アドレスまたは DNS 名

●内容

[値の名前]：ISL AlwaysOn::address

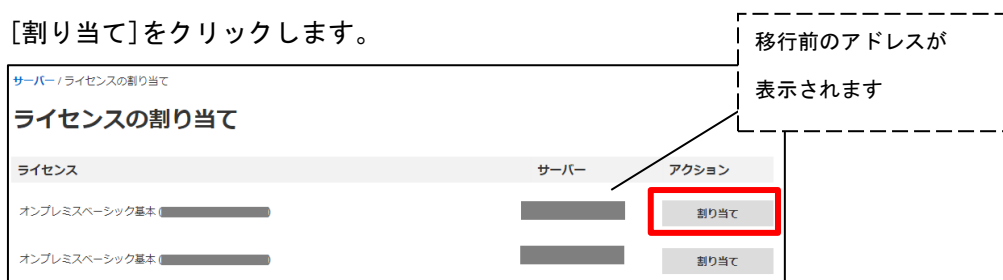
[値のデータ]：移行前サーバーの IP アドレスまたは DNS 名

4. 「2.」の「ISL AlwaysOn::address」を移行後サーバーの「IP アドレスまたは DNS 名」に変更します。
 5. サービス「ISL AlwaysOn Service」を起動します。
- (ウ) 移行前と移行後のサーバーのアドレスが異なる場合は、以下の手順 1～6 に従ってライセンスファイルを取得してください。

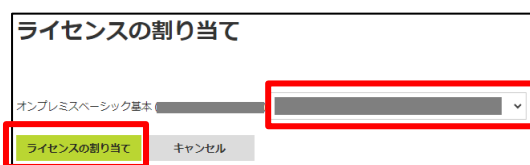
1. ISL Online の製品トップページ(<https://www.islonline.jp/>) 右上の[ログイン]ボタンをクリックしてログイン後、メニューから [オンプレミスライセンス]を選択します。



2. [サーバー]タブ内の[サーバーの追加]をクリックし、移行後の IP アドレスを入力して[保存]します。
3. 2 で入力した移行後の IP アドレス欄の、[ライセンスの割り当て]をクリックします。
4. [割り当て]をクリックします。



5. 2 で設定したアドレスを選択していることを確認し、[ライセンスの割り当て]をクリックします（複数のライセンスを割り当てる場合は、再度 4 と 5 を行います）。



6. 画面左上の[サーバー]を選択し、サーバー一覧へ戻ります。[サーバー]タブ内の[パケットの作成]をクリックします。
7. 「サーバー」に2で入力したIPアドレスが表示されていることを確認し、[作成]をクリックします。「バージョン」は移行するISL Conference Proxyのバージョンを選択します。

サーバー / パケットの作成

パケットの作成

サーバー [Redacted] ▼

バージョン ISL Conference Proxy ▼

コメント

作成 キャンセル

8. 作成すると、[パケット]タブ内の一覧にライセンスファイル (confproxy-X-X.license) のリンクが表示されます。作成されたパケットの[confproxy-X-X.license]をクリックして、ライセンスファイルのダウンロードを行います。

オンプレミスライセンス

サーバー **パケット** 履歴

パケット

ISL Onlineシステムを貴社サーバー上で稼働するための設定を行います。
新規にパケットを作成する場合は、「パケットの作成」をクリックしてください

🔍 パケットの検索...

パケット (1)

作成日	サーバー	保存期限	ライセンスファイル	アクション
08.08.2023 ⓘ	[Redacted]	01.01.2025	confproxy-4.4license	インストールガイド 削除

9. 移行先の端末で ISL Conference Proxy のインストールが完了したら、ダウンロードしたライセンスファイルの適用を行います。

3.2 移行手順

【移行元の端末で行ってください】

1. P.6「2 ISL Conference Proxy のバックアップ」を参考に、バックアップファイルを作成します。
2. バックアップファイル出力フォルダーをコピーします。
※ P.7「ディスク上のパス」に指定したディレクトリです。

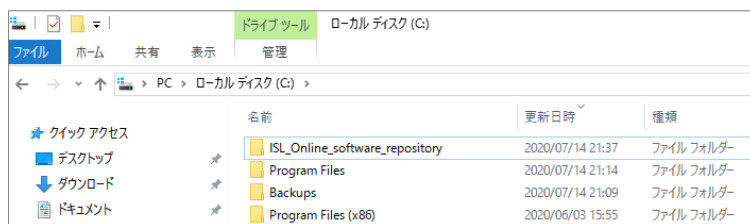
【移行先の端末で行ってください】

3. (Windows) バックアップファイル出力フォルダーを C ドライブ直下に保存します。
(Linux) バックアップファイル出力フォルダーを「opt」直下に保存します。
4. 以下ページよりインストーラーおよびモジュール関連 ZIP を取得します。

○オンプレミスライセンス 製品ダウンロード

https://www.islonline.jp/help/download_cp.html

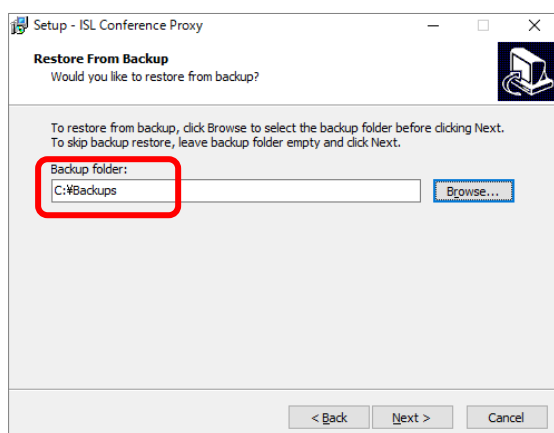
5. (Windows)モジュール関連 ZIP を解凍して得られる「ISL_Online_software_repository」フォルダーを C ドライブ直下に保存します。



(Linux) モジュール関連 ZIP を解凍して得られる「ISL_Online_software_repository」フォルダーを「opt」直下に保存します。

6. (Windows) サーバーの管理者権限を持つ Windows アカウントで、ISL Conference Proxy のインストーラーを実行します。表示されるインストールウィザードの[Next]をクリックして進みます。

- ※ インストールウィザードの[Backup folder:]にて、コピーした出力フォルダーが指定されているかご確認ください。



- ※ フォルダー内に複数のバックアップファイルが存在する場合、最新のファイルからデータの読み込みを行います。

(Linux) root アカウントで、以下コマンドを実行します。

sh インストーラー restorebackup バックアップファイル

- ※ フォルダー内に複数のバックアップファイルが存在する場合、最新のファイルからデータの読み込みを行います。

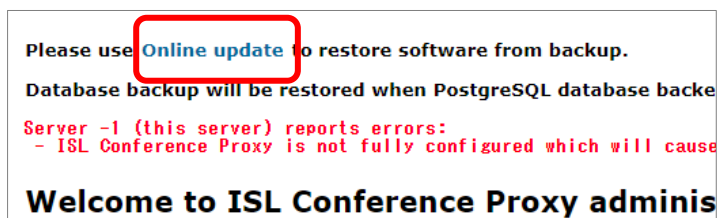
7. インストールが完了すると、ブラウザ上で ISL Conference Proxy の管理画面 (ISL Conference Proxy administration) が自動的に開きます。

- ※ 管理画面が自動で開かない場合は、Windows のスタートメニューから[ISL Conference Proxy] – [Web administration]をクリックするか、ブラウザで「http://localhost:7615/conf」と入力して開くことができます。(7615 部分は利用中のポート番号です)

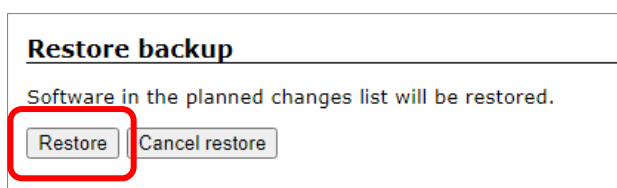
8. 管理画面にログインします。(初期値の[Username]は「admin」、[Password]は「asd」です)
9. 左側メニューの[Manage software] – [Manual update]をクリックします。
10. Manual update の画面にある、[2. Enter the full path to the software repository:]の欄で、[Use standard location]が選択されていることを確認し、[Save]をクリックします。
11. (Windows) クリック後、[Current software update URL is set to] の値が「file:///C%3a/ISL_Online_software_repository」になっていることを確認します。

(Linux) クリック後、[Current software update URL is set to] の値が「file:///opt/ISL_Online_software_repository」になっていることを確認します。

12. 「Please use **Online update** to restore software from backup.」を選択します。

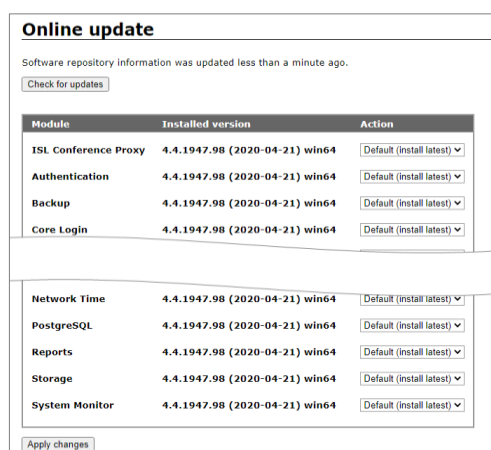


13. [Restore]を選択します（復旧データを読み込み終わるまでしばらく待ちます）。



[Restore]が表示されない場合、(補足)をご参照ください。

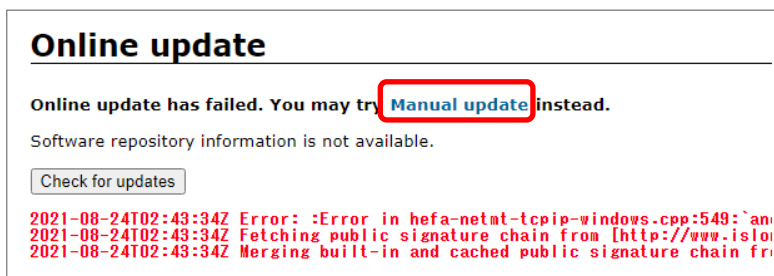
14. [Restart ISL Conference Proxy]をクリックして、ISL Conference Proxy の再起動を行います。（再起動中にサーバーのシャットダウンなどを行った場合、ISL Conference Proxy が正常に動作しなくなる可能性があります）再起動が完了すると、[Please click here to go back to the session]のリンクが表示されます。リンクを選択し、「Online update」画面が正しく表示されることを確認します。



15. 製品が利用できることを確認します。

➡（補足）[Restore]が表示されない場合

次の画面にある[Online update has failed.You may try Manual update instead.]を選択します。

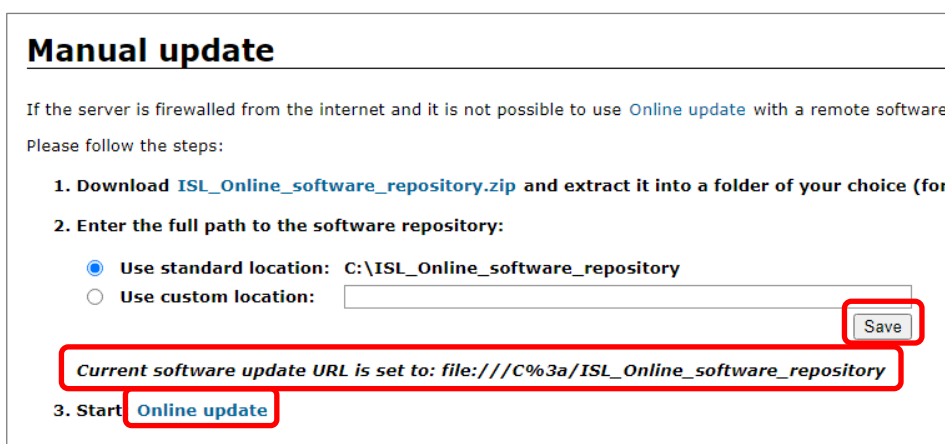


Manual update の画面にある、[2. Enter the full path to the software repository:]の欄で、[Use standard location]が選択されていることを確認し、[Save]をクリックします。

クリック後、[Current software update URL is set to]の値が

Windows の場合「[file:///C%3a/ISL_Online_software_repository](file:///C:/ISL_Online_software_repository)」、Linux の場合「file:///opt/ISL_Online_software_repository」になっていることを確認し、

[Online update]をクリックします。



4 ISL Conference Proxy のアップグレード

4.1 はじめに

・保守サポートが終了したバージョンからのアップグレードはサポート対象外のため、最新版の新規セットアップを推奨します。保守サポート対象のバージョンは、別紙『バージョンアップガイド』をご参照ください。

https://www.oceanbridge.jp/isl/cp/manual/ISL-VersionUp_Guide.pdf

4.2 アップグレードに必要なファイル

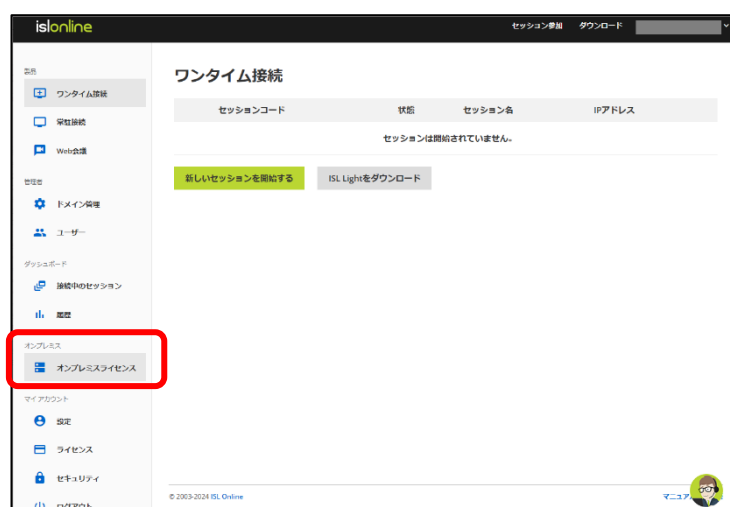
最新バージョンである ISL Conference Proxy 4.4.2335.124 へのアップグレードを行う際は、以下のファイルが必要です。

- モジュール関連 ZIP
 - オンプレミスライセンス 製品ダウンロード
https://www.islonline.jp/help/download_cp.html
- ライセンスファイル（パケット）：「confproxy-4-4.license」

お手元に既にご利用中の「confproxy-4-4.license」がある場合は、そちらをご利用ください。また、ご利用中のライセンスファイルが「confproxy-4-3.license」など数字部分が「4-4」未満の場合は新たにライセンスファイルを作成する必要があります。手順は以下の通りです。

ライセンスファイルの作成

1. ISL Online の製品トップページ (<https://www.islonline.jp/>) 右上の[ログイン]ボタンをクリックして、オンラインページにログインします。
2. メニューから[オンプレミスライセンス]を選択します。



3. 「サーバー」タブ内の [パケットの作成] ボタンをクリックします。

4. パケットを作成するサーバーのアドレスを確認後、[作成] ボタンをクリックします。

サーバー / パケットの作成

パケットの作成

サーバー

バージョン ISL Conference Proxy

コメント

5. 「保守期限」に表示される期限が新しい保守期限であることを確認し、ライセンスファイル [confproxy-4-4.license] をクリックして保存します。

オンプレミスライセンス

サーバー **パケット** ライセンス履歴

パケット

ISL Onlineシステムを貴社サーバー上で稼働するための設定を行います。
新規にパケットを作成する場合は、「パケットの作成」をクリックしてください

パケット (115)

作成日	サーバー	保守期限	ライセンスファイル	アクション
2024年10月25日	<input type="text" value=""/>	2028年1月1日	confproxy-4-4.license	<input type="button" value="インストールガイド"/> <input type="button" value="削除"/>

4.3 アップグレード手順

注意事項

サービス「ISL Conference Proxy upgrade」の起動を必ず確認した上で実施してください。

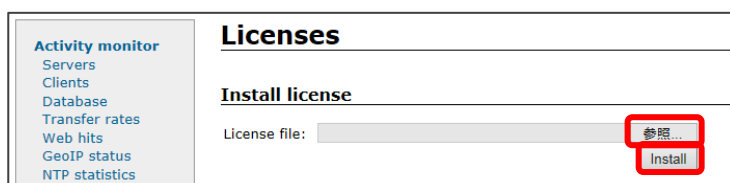
※ 常駐接続（ISL AlwaysOn）のクライアントのバージョンアップ手順は、『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください。

1. ライセンスファイル「confproxy-4-4.license」を任意の場所に保存します。
 2. 「モジュール関連 ZIP ファイル（software.zip）」を解凍して得られる、「ISL_Online_software_repository」フォルダをCドライブ直下に保存します。
既に同名のフォルダが存在している場合は、一度削除してください。
 3. ISL Conference Proxy の管理画面にログインします。（初期値の[Username]は「**admin**」、[Password]は「**asd**」です。アップグレード前に変更している場合は変更が引き継がれます）
 4. ライセンスファイル「confproxy-4-4.license」の適用を行います。
 5. [Restart ISL Conference Proxy]をクリックします。
 6. [Manual update]を実行します。※
※ 「4.5 Manual Update（各種プログラムの手動アップグレード）について」をご参照ください。
- 以上でアップグレード作業は完了です。

4.4 ライセンスファイル適用について

移行前の IP アドレス（または DNS 名）が移行後と異なる場合の移行手順と、すべてのパターンのアップグレード手順に必要な、ライセンスファイルの適用の手順について説明します。各手順内でライセンスファイルの適用を行う際は、本項をご参照ください。

1. ライセンスファイル「confproxy-X-X.license」を任意の場所に保存します。
2. ISL Conference Proxy の管理画面を開き、[Username]に「**admin**」、[Password]に「**asd**」と入力してログインします。
画面左側のメニューから[Manage software] - [Licenses]を選択します。
3. [参照]から、保存したライセンスファイルを指定して[Install]をクリックします。



4. [Restart ISL Conference Proxy]をクリックして、ISL Conference Proxy の再起動を行います。（再起動中にサーバーのシャットダウンなどを行った場合、ISL Conference Proxy が正常に動作しなくなる可能性があります）再起動が完了すると、[Please click here to go back to the session]のリンクが表示されます。クリックすると管理画面に戻ります。（ログインページが表示された場合は再度ログインを行ってください）

以上でライセンスファイルの適用は完了です。

➡（補足）ライセンスファイルとデジタル署名について

- ・ 保守サポート期間中のアカウントでライセンスファイルを作成した場合、各プログラムに ISL Online の開発元である XLAB 社のデジタル署名が付与されます。体験版の場合は、デジタル署名は付与されません。
- ・ デジタル署名を付与するコードサイン証明書の有効期限は、ISL Conference Proxy のバージョンとライセンスファイルの作成時期で異なります。詳細は以下をご参照ください。
<https://islsupport.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/articles/digital-signature>
- ・ 複数年保守にご加入中のユーザー様の環境では、保守期間内にデジタル署名の有効期限が切れる場合がございます。
- ・ デジタル署名の有効期限後もプログラムは使用できますが、プログラムのダウンロード時や実行時に警告メッセージが表示される場合があります。

- ・ デジタル署名の有効期限が切れた場合は下記 FAQ ページの【ライセンスファイルの入れ替え】を行うことで期限を更新できます。

https://www.islonline.jp/help/on-premise_change.html

4.5 Manual Update（各種プログラムの手動アップグレード）について

ISL Conference Proxy のセットアップ、アップグレード及びサーバーの移行において必要な Manual Update の操作方法について説明します。また、アップグレード前のバージョンや、移行するバージョンによって必要となる[PostgreSQL のインストール]についても説明します。本マニュアルの各手順内で[Manual Update] 及び[PostgreSQL のインストール]を実行する際は、本ページをご参照ください。

【事前準備】

1. (Windows) モジュール関連 ZIP を解凍して得られる「ISL_Online_software_repository」フォルダを C ドライブ直下に保存します。サーバーの移行を行う際は、移行元の端末の「C:\ISL_Online_software_repository」をコピーして移行先の端末の C ドライブ直下に保存します。（「ISL_Online_software_repository」がない場合、P.3「オンプレミスライセンス 製品ダウンロード」を参照し、対応するバージョンのモジュール関連 ZIP をダウンロードして解凍します）



(Linux) モジュール関連 ZIP を解凍して得られる「ISL_Online_software_repository」フォルダを「opt」直下に保存します。サーバーの移行を行う際は、移行元の端末の「C:\ISL_Online_software_repository」をコピーして移行先の端末の「opt」直下に保存します。（「ISL_Online_software_repository」がない場合、P.3「オンプレミスライセンス 製品ダウンロード」を参照し、対応するバージョンのモジュール関連 ZIP をダウンロードして解凍します）

2. ISL Conference Proxy の管理画面を開き、[Username]に「**admin**」、[Password]に「**asd**」と入力してログインします。画面左側のメニューから[Manage Software] - [Manual Update]をクリックします。

3. [2. Enter the full path to the software repository:]の欄で、[Use standard location]が選択されていることを確認して、[Save]をクリックします。
- 続けて「Current software update URL is set to」の値が、
- Windows の場合「file:///C%3a/ISL_Online_software_repository」、
- Linux の場合「file:///opt/ISL_Online_software_repository」 になっていることを確認し、[Online update]をクリックします。

Manual update

If the server is firewalled from the internet and it is not possible to use [Online update](#) with a remote so be used to upgrade ISL Conference Proxy.

Please follow the steps:

1. Download [ISL_Online_software_repository.zip](#) and extract it into a folder of your choice (C:\ISL_Online_software_repository)
2. Enter the full path to the software repository:
 - ☒ Use standard location: C:\ISL_Online_software_repository
 - ☐ Use custom location:

Save

Current software update URL is set to: file:///C%3a/ISL_Online_software_repository

3. Start **Online update**

4. [Online update]画面が開きます。画面下の[Apply changes]をクリックすると、アップデートを開始します。グレーの画面が表示される場合は、消えるまでお待ちください。

Online update

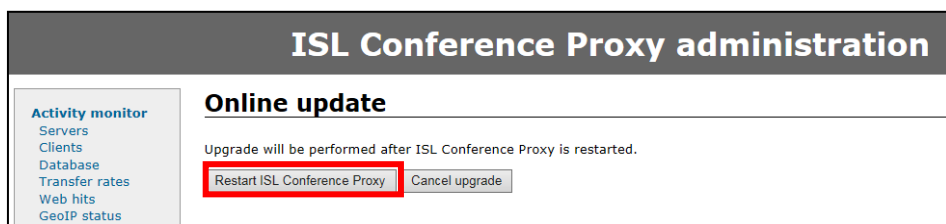
Software repository information was updated less than a minute ago.

[Check for updates](#)

Module	Installed version	Action
ISL Conference Proxy Install latest programs: 20 Install latest translation: 2018-09-20 09:36:46 (languages: 34)	4.4.1816.71 (2018-09-20) win64	Default (install latest) ▼
Authentication not installed Install latest module: 4.4.1816.25 (2018-05-17) win64		Default (install latest) ▼
Core Login not installed Install latest module: 4.4.1816.66 (2018-08-21) win64 Install latest translation: 2018-09-20 09:36:46 (languages: 26)		Default (install latest) ▼
DNS Server not installed		Default (no change) ▼
GeoIP not installed Install latest module: 4.4.1816.66 (2018-08-21) win64		Default (install latest) ▼
ISL AlwaysOn not installed Install latest module: 4.4.1816.71 (2018-09-20) win64 Install latest programs: 8 Install latest actions: 9 Install latest translation: 2018-09-20 09:36:46 (languages: 35)		Default (install latest) ▼
ISL Groop not installed Install latest module: 4.4.1816.25 (2018-05-17) win64 Install latest programs: 4 Install latest translation: 2018-09-20 09:36:46 (languages: 34)		Default (install latest) ▼
ISL Light not installed Install latest module: 4.4.1816.66 (2018-08-21) win64 Install latest programs: 19 Install latest plugins: 18 Install latest translation: 2018-09-20 09:36:46 (languages: 34)		Default (install latest) ▼
System Monitor not installed Install latest module: 4.4.1747.40 (2018-03-12) win64		Default (install latest) ▼

Apply changes

5. アップデートが正常に終了すると、画面上部に[Restart ISL Conference Proxy]のボタンが表示されます。ボタンをクリックして ISL Conference Proxy を再起動します。

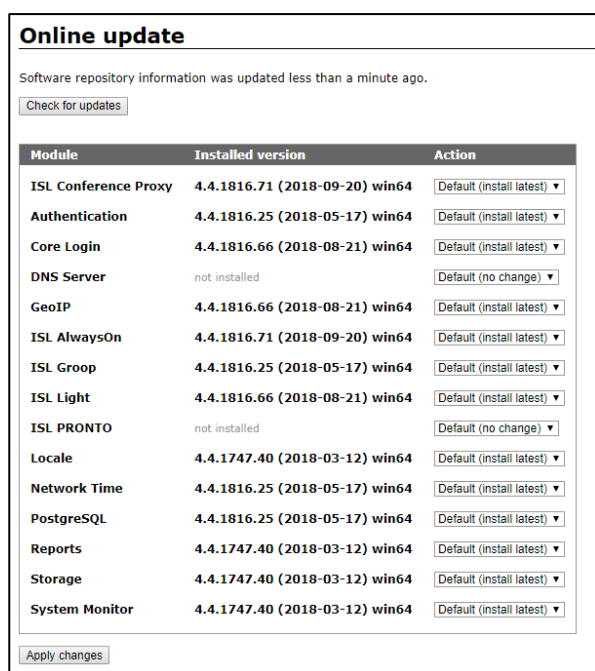


6. ISL Conference Proxy の再起動が完了するまでお待ちください。再起動中にサーバーのシャットダウンなどを行った場合、ISL Conference Proxy が正常に動作しなくなる可能性があります。

再起動が完了すると「Please click here to go back to the session」というメッセージが表示されます。メッセージをクリックすると、[Online update]の画面に戻ります。(ログインページが表示された場合は再度ログインを行ってください)

7. [Online update]画面で次の画像が表示されたらアップグレード作業は完了です。手順 4. のような緑色あるいは黄緑色のメッセージが表示されている場合は、手順 4. ～6. を繰り返します。

※ [Upgrade to PostgreSQL]のメッセージが表示されている場合は手順 8. に進みます。



8. [Online update]画面上部に、[Upgrade to PostgreSQL]のメッセージが表示されている場合は、チェックを入れてクリックします。



9. ISL Conference Proxy の再起動が行われます。完了するまで待ちます。再起動中にサーバーのシャットダウンなどを行った場合、ISL Conference Proxy が正常に動作しなくなる可能性があります。再起動が完了すると、「Please click here to go back to the session」というメッセージが表示されます。

以上で[Manual Update]作業は完了です。

5 ISL Conference Proxy の復旧

バックアップしたインストールフォルダを使って、ISL Conference Proxy の復旧を行う手順を説明します。

注意事項

ユーザーの情報や履歴情報などのデータは、最後にバックアップした時点までしか復旧することができません。

1. P. 6 「2 ISL Conference Proxy のバックアップ」を参考に、バックアップファイルを作成します。
2. バックアップファイル出力フォルダーをコピーします。
※ P. 7 「ディスク上のパス」に指定したディレクトリです。
3. P. 24 「6. ISL Conference Proxy のアンインストール」を参照して、ISL Conference Proxy のアンインストールとインストールフォルダの削除を行います。
4. P. 12 「3. 2 【移行先の端末で行ってください】」以降の手順を実施します。

6 ISL Conference Proxy のアンインストール

ISL Conference Proxy のアンインストールを行う際は、下記の手順に従ってください。

(Windows)

1. [コントロール パネル]から[プログラムの追加と削除]もしくは[プログラムと機能]を開き、[ISL Conference Proxy]を選択して、[削除]をクリックします。
2. ISL Conference Proxy のインストールフォルダーを削除します。インストールフォルダーの初期値は以下の通りです。

「C:\Program Files\ISL Conference Proxy」

- ※ ISL Conference Proxy を再度インストールする際は、インストールフォルダー内のすべてのファイルを削除した後に、インストールを行ってください

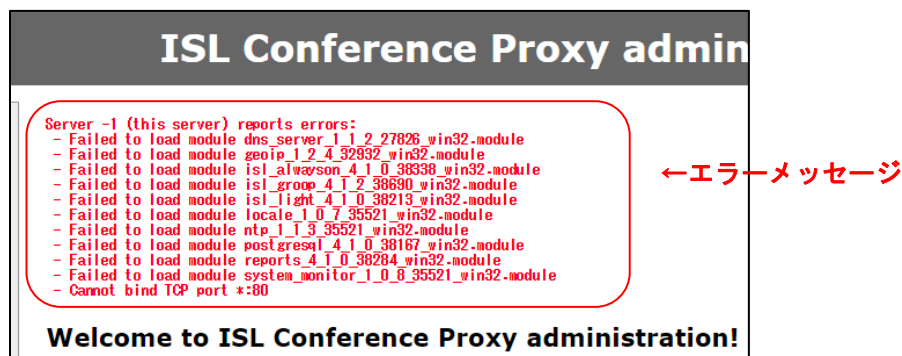
(Linux)

1. root アカウントでコマンドを開き、以下コマンドを実行します。
`confproxctl uninstall`
2. ISL Conference Proxy のインストールフォルダーを削除します。インストールフォルダーは以下になります。
`/opt/confproxy`

同じ端末に再度 ISL Conference Proxy をインストールする際は、インストールフォルダー内のすべてのファイルを削除した後でインストールを行ってください。

7 ISL Conference Proxy のエラーメッセージ

移行またはアップグレードした後、管理画面に「Failed to load module *****.module」といったエラーが表示される場合は、以下の手順でエラーを解消できます。



1. 現在ご利用いただいている ISL Conference Proxy のバージョンを確認します。管理画面にログインし、[Activity monitor] - [Servers]の「Version」から確認できます。
2. 当該バージョン用のモジュール関連 ZIP (software.zip) を解凍して得られる「ISL_Online_software_repository」フォルダーを、Windows の場合は C ドライブ直下に、Linux の場合は opt 直下に保存します。

▼オンプレミスライセンス 製品ダウンロード

https://www.islonline.jp/help/download_cp.html

3. ISL Conference Proxy のサービスを停止します。
(Windows) Windows のスタートメニューから[コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス]を選択して、[ISL Conference Proxy]を停止します。
[ISL Conference Proxy]以外のサービスは停止しないでください。
(Linux) 以下コマンドを実行し ISL Conference Proxy サービスを停止します。

```
confproxycctl stop
```

4. ISL Conference Proxy のインストールフォルダー以下のフォルダー「modules」を開きます。

▼Windows の場合（初期値）

C:\Program Files\ISL Conference Proxy\modules

▼Linux の場合

/opt/confproxyc/modules

5. エラーメッセージに表示されている「*****.module」および「*****.module.version」という名前のファイルが存在する場合は削除します。
(「*****」内には、エラーメッセージ内に表示されているモジュール名が入ります)

6. (Windows) [ISL Conference Proxy]のサービスを開始します。

(Linux) 以下コマンドを実施し ISL Conference Proxy サービスを開始します。

```
confproxctl start
```

7. ISL Conference Proxy の管理画面にログインして、エラーが表示されないことを確認します。

※ エラーが表示されている場合は、 [Manual update]を実行します。

(「4.5 Manual Update (各種プログラムの手動アップグレード) について」をご参照ください)

ご不明点や不具合などがございましたら、下記 ISL Online FAQ ページをご参照ください。

<https://www.islonline.jp/help/index.html>

ISL Online 製品に関するお問い合わせはメールのみになります。

電話でのお問い合わせは受け付けておりませんのでご了承ください。

製品の詳しい情報については、以下の ISL Online ウェブページをご参照ください。

<https://www.islonline.jp/>

ISL Online 開発元

XLAB d.o.o.

URL: <https://www.xlab.si/>



ISL Online 国内総販売代理店

株式会社オーシャンブリッジ

URL: <https://www.oceanbridge.jp/>

